資料 4-3

令和８年度の域外飼育繁殖個体ファウンダーの捕獲

１．捕獲・飼育の経過

現在の飼育状況は表１のとおり。

表１：オガサワラカワラヒワの飼育状況

時　　期	飼育数（内訳）	事　項
2021 年 9 月	4 羽（♂2・♀2）	4 羽　新規捕獲　飼育着手
2022 年 9 月	8 羽（♂4・♀4）	＋4 羽　追加捕獲
2022 年 11 月	7 羽（♂3・♀4）	－1 羽　落鳥　頭部の陥没と出血痕　肺にカビの一種
2023 年 2 月	6 羽（♂2・♀4）	－1 羽　落鳥　肝臓の変色
2023 年 3 月	5 羽（♂2・♀3）	－1 羽　落鳥　頭部挫傷と気嚢圧迫の可能性
2023 年 9 月	4 羽（♂1・♀3）	－1 羽　落鳥　クマネズミによる捕食の可能性
2023 年 10 月	12 羽（♂6・♀6）	＋8 羽　追加捕獲
2023 年 10 月	11 羽（♂5・♀6）	－1 羽　落鳥　重度の化膿性壊死性気管支肺炎（捕獲前発症と想定）、捕獲時ストレス
2024 年 3 月	10 羽（♂4・♀6）	－1 羽　落鳥　肝不全による全身性の代謝障害
2024 年 6 月	9 羽（♂4・♀5）	－1 羽　落鳥　死因不明
2024 年 10 月	9 羽（♂4・♀5）	＋1 羽　追加捕獲 －1 羽　落鳥　広範囲重度の化膿性壊死性胸膜肺炎
2025 年 3-4 月	9 羽（♂4・♀5） 父島：♂2・♀3 IBO　：♂1・♀1 上野：♂1・♀1	飼育繁殖施設へ移送
2025 年 3-4 月	8 羽（♂4・♀4） 父島：♂2・♀2 IBO　：♂1・♀1 上野：♂1・♀1	－1 羽　落鳥　卵塞症の疑い、腹膜炎
2025 年 6-7 月	14 羽（♂4・♀4・不明 6） 父島：♂2・♀2・不明 3	＋9 羽　父島、IBO、上野における繁殖成功 －3 羽　落鳥　死因不明（ふ化後、自然育雛中に雛死亡）

資料 4-3

	IBO ：♂1・♀1・不明 1 上野：♂1・♀1・不明 2	
2025 年 10-12 月	16 羽（♂10・♀6） 父島：♂5・♀3 IBO ：♂2・♀1 上野：♂3・♀2	♂1・♀1 上野へ移送 ＋3 羽(♂2・♀1) 新規ファウンダー捕獲 －1 羽 落鳥 頭部挫傷(上野)
2026 年 2 月	15 羽（♂9・♀6） 父島：♂4・♀3 IBO ：♂2・♀1 上野：♂3・♀2	－1 羽 落鳥 副鼻腔炎(父島)
2026 年 5-6 月	27 羽（♂11・♀6・不明 10） 父島：♂6・♀2・不明 4 IBO ：♂2・♀2・不明 3 上野：♂3・♀2・不明 3	♀1 父島→IBO へ移送 ＋14 羽 父島、IBO、上野における繁殖成功 －2 羽 落鳥 栄養不足と推定(父島、上記繁殖個体)
2026 年 7 月	27 羽（♂11・♀6・不明 10） 父島：♂6・♀2・不明 4 IBO ：♂2・♀2・不明 3 上野：♂3・♀2・不明 3	4 卵産卵（父島、2 クラッチ目）

２．今年度のファウンダー捕獲にかかる検討事項

（１）既往のファウンダー捕獲について

既往のファウンダーの捕獲時期、捕獲を実施した島およびその優先順位は表２のとおり。

① 捕獲時期

・オガサワラカワラヒワの巣立ち雛が十分に野外環境に慣れた後にファウンダーを確保するのが理想的であることから、本種の春季繁殖活動の終了後から秋季繁殖活動の開始前の期間に実施することが望ましい。

・2021～2025 年度は、9 月上旬～10 月上旬の間に捕獲を実施した。

② 捕獲を実施する島およびその優先順位

資料 4-3

・2021～2023 年度は、移送の安全性、域内繁殖への影響、個体の危険回避、捕獲効率、誘因条件から総合的に優先度を判断した。優先度に沿って事前に母島捕獲予定地で誘引をおこない、４羽以上の飛来が確認できない場合は属島での捕獲に切替えることとした。

・2022 年、2023 年は母島の捕獲地周辺にオガサワラカワラヒワの飛来がみられず、属島で捕獲したが、秋季に属島での捕獲を実施するとなると、タイミングが秋繁殖の途中になり、捕獲作業が域内繁殖活動に影響を与える可能性があるため、作業時に配慮が必要となる。

・2024, 2025 年度は母島属島のオガサワラカワラヒワの繁殖実績を鑑み、平島で捕獲することとした。

表２：ファウンダー捕獲状況

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度（予定）
捕獲時期	９月 23 日	９月 ７ 日～10 日	10 月 7 日	10 月 3 日	10 月 15 日	9 月下旬～10 月初旬
捕獲羽数	4 羽（♂2・♀2）	4 羽（♂2・♀2）	8 羽（♂5・♀3）	1 羽（♂1）	3 羽（♂2・♀1）	4 羽（♂1・♀3）
捕獲を実施した島・羽数	母島：成鳥１、若鳥３	平島:若鳥１ 向島:若鳥２ 姉島:若鳥１	平島：若鳥８	平島:若鳥１	平島：若鳥 3	
優先順位	母島＞属島	母島＞平島＞向島＞姉島	母島＞向島＞平島＞姉島	平島	平島	平島

（２）今年度のファウンダー捕獲について

【検討会で議論いただきたい点】

今年度のファウンダー捕獲にかかる捕獲時期、捕獲を実施する島、捕獲羽数についてご意見いただきたい。

・捕　獲　時　期　：**9 月下旬から 10 月初旬**

資料 4-3

・捕獲を実施する島：**平島**

・R8 年度希望数：**4 羽（♀3 羽、♂1 羽）**

※但し、当年の春繁殖個体（夏繁殖＝明らかな幼鳥はリリース）

＜考え方＞

・2026 年８月現在の飼育個体が、10 羽（♀4，♂6）＋9 羽（2026 年産まれ）。

・♀はすべて繁殖試行中。

→　今季、東京動物園協会へ最低♀3~4 羽を移動すると仮定。

→　来季までに、現行の♀4 羽から高齢 1～2 羽が脱落と仮定。

・2027 年春に使用可能な繁殖施設　4 棟（大神山、IB01、2、3 号）。

・全施設での繁殖試行を想定　　最低♀4 羽が必要。

・想定：現在飼育中の♀4 羽中、前述の脱落や東京移動を経ても♀1 羽は島に残る。

・新規ファウンダーの♀3 羽と残った♀1＋で、♀4 羽を確保。

・脱落があった場合には、2026 年生まれの個体から♀が補充可能と仮定。

・新規ファウンダーの♂は、遺伝子源の多様性維持のために、最低数の 1 羽を確保。